

# 伊那小教育三十年をふりかえり、 教育の本質を探究し創造する本

三十年ぶりに、伊那小教育を語り尽くし、これを世に問う本が出版された。この本には、珠玉の実践事例とともに歴代校長の談話や歴代研究主任の座談会での話などが掲載されている。それらの全編に、教育の根本に立ち、また、時代の変化や時勢の流動に対応し、柔軟でありながら、ゆるぎのない教育の実践をめざしてきた伊那小の取組が赤裸々に語られている。

一読すれば、伊那小の全ての教師が、一貫して教育理念・原理といった教育の精神を確かにしつつ、それを実践に具現しようと切磋琢磨し、研鑽を積んできたことを感じるだろう。伊那小教育には、例えば「はじめに子どもありき」等の教育の精神となる教育理念・原理がある。それを美辞麗句にせず、それに基づいたあるべき教育の形を創造している。教育の精神と形の合一を図り続ける教育は、常に新鮮で陳腐にはならない。

伊那小の子どもは、のびやかに材や友とかかわり、自ら求めるところに向かって活動し、一人前の人間として成長する過程を歩んでいる。伊那小の教師は、実践を自省・自問し、本を読み、先輩・同僚と語り合い、自身の子ども親や教育観を構築していく。子どもも教師も成長している教育実践は清々しいものである。

優れた教師を志す者は、何よりも授業の腕を上げる必要がある。だが、それが技術で終わってしまうのではもったいない。子どもと教師の息遣いや空気までもが伝わってこなければ、優れた授業にすることはできない。有難いことに、この本にはそうした境地がありありと描き出されている。得ることが多々あると思われる。

この本は伊那小教育のエッセンスである。この本を読むどなたにも教育への希望と情熱とロマンと、内からの活力がわき上がってくることを信じて疑わない。

文教大学・同大学院教授 嶋野道弘

## 内容紹介 目次より

### 共に学び共に生きる

— 伊那小教育の軌跡 —

監修 文教大学・同大学院教授 嶋野道弘

#### 一 内から育つ

- ・ にわとりと共に 〈昭和52年度〉
- ・ 与作の家 〈昭和56年度〉

・ 総合学習に内包される教科学習  
〜遊びの中で獲得していく長さの概念〜  
〈昭和54年度〉

・ ふるさとの川に親しんで  
〜天竜川にかかわる学習から〜  
〈平成7年度〉

・ 牛のメイちゃん和春組の子どもたち  
〈平成4〜7年度〉

・ シジユウカラを追え

〜直組野鳥観察〜 〈平成6、7年度〉

・ もう一つの教室 湧き水の森で

〜いのちを感じて〜 〈平成14、15年度〉

・ 伊那小学校の桜を守ろう 〈平成16〜18年度〉

・ 羊さんといっしょ 〈平成20〜22年度〉

#### 二 「内から育つ」実践事例から

#### 三 伊那小の総合を語る

— 元研究主任座談会 —

